

ながたに暮らし体験記

長谷で、トトロと出会える・・・?

1年前の4月に共助研に入会してから計2回、長谷にお邪魔しております。

初めて長谷にお邪魔したのは、昨年6月の田植えの時期でした。見渡す限りの田園地帯に「トトロが住んでそう・・・」と思ったのが最初の長谷の印象です。

あの時は、お手伝いするつもりで行ったのですが、田植えや神楽、レディーの方々のおいしい料理など、逆にこちらが感動やお土産をいっぱいいただいて帰ってきてしまいました。長谷の皆さん、その節は大変お世話になりました!

最近では、近所付き合いや老若男女が集まる場などがだんだん少なくなっている中、人とのふれあいや温かみに触れられる長谷は今の私に必要な場所かもしれません。大げさかもしれませんが、第二の実家に帰ってきたような、仕事の疲れも飛んでいくような、そんな感覚さえ芽生えています。

なので、昨年秋の豪雨による収穫祭の中止は残念でなりませんでした。「稲刈りマスターになってやる!」と意気込んでいたのに。自然の前では人間は無力ですね・・・

今後も共助研メンバーとして、微力ながらも長谷の地域の皆さんと歩幅を合わせ、一緒に長谷のためにできることを模索していきたいと思えます。

千里の道も一歩から。まずは、長谷の魅力再発掘のため、史跡マップを作りませんか?

いつかトトロと出会える日を夢見て。今後ともよろしく願いたします。(共助研 佐伯亮子)



(みんなの田圃片付け後に、今年の豊作を祈念して)

2018年2月20日発行



来ちみなあ 14号

「来ちみなあ」伝言板

「私のコダワリ」トーク 第6回の予告

- 次回も、長谷出身の若者にトークしていただく予定です。
- 時期は4月～5月頃。春から初夏に向けて忙しくなる時期となりますが、地元若い人のお話を聞く貴重な機会です。皆さんのご参加をお待ちしています。

初代長谷探検隊メンバーによるコダワリトークから、「新・ながたに探検隊」の活動へ。

この冬は、大陸からの寒波が度々到来し、例年のない厳冬が続いていますが、比較的穏やかな天候に恵まれた先月27日に、「私のコダワリ」トーク第5回を開催しました。

初代長谷探検隊の安部直樹さんが、8年前の探検隊当時から温めていたという「宿泊観光による長谷地区の活性化」について熱くトークし、旧長谷小や来ちみなあハウス等の空き施設をうまく活用しながら、宿泊を通して長谷を広く知ってもらおうと、地域の皆さんに問いかけました。

続いての新年会の賑やかさにまぎれて、その問いかけがどの程度皆さんの心に響いたのかいささか不安でしたが、「ながたに風」にもあるように、若い人からの提案としてしっかりと受け止めていただけたようです。

共助研としても、この思いを共有しながら今年の新・ながたに探検隊の活動につないでいきたいですね。(波木健一)

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」(和洋室5室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅)での活動を紹介する通信です。発行:「来ちみなあハウス」店子グループ

ながたに風

「柴北川を愛する会」に入って

私は「柴北川を愛する会」の発足当時から、様々な行事に参加させていただいています。

もう十年の歳月が経とうとしているのですね。柴北川の清掃に始まり「来ちみなあハウス」開設に至るまで、めざましい進展を遂げてきているのではないのでしょうか。これも「共助研」の皆様のご指導とご協力・地区役員さんの力強い協力体制、そして何より会員同士のチームワークの良さの現れだと思っています。

会員数も増え、今では長谷地域の大切な組織となりました。過疎化が深まる中、心強く思っております。

夢多き「柴北川を愛する会」の皆さん、これからも長谷地域活性化のために交流の場をもちましょ。

先日の「私のコダワリ」トークでは、大学生(安部直樹さん)による長谷地域活性化に向けた提言を聴かせて頂きました。

長谷の現状把握の基にたどり着いたのが民泊の提言でした。これからは空き家が増えるでしょう。お若いのに先見の明のある方だなあと思いながら耳を傾けていました。

我が家も私たちが居なくなったら藪になりそうです。そうなる前に、なんとか活かせる方法ないかと常々考えております。

我が家には大地の恵みがいっぱいです。湧水・野菜・花・果樹などおいしく頂き、楽しむ事ができる環境にありますので、民泊もよしかな・・・と考える時があります。

まず私にできる事は、娘や孫・友人にこの魅力を伝える事から・・・と思いながら、夢を膨らませています。

(柴北川レディース・穴見奈々子)



(コダワリトーク後に、安部さん(前列中央)を囲んで)

